

# かんしょの害虫防除について

令和2年7月  
県央農林事務所 経営・普及部門  
(029-227-1521)

本年も昨年同様、5月から6月にかけて平年より気温が高い状況が続いており、ナカジロシタバの早期発生が懸念されます。つる先や上位葉を注意深く確認し、食害が見られたら早期から防除を行いましょう。

## <ナカジロシタバの生態について>



写真：ナカジロシタバ中齢幼虫  
(茨城県病害虫防除部 HP より)

ナカジロシタバの幼虫は、5月上旬～6月中旬に第一世代、7月上旬～8月中旬に第二世代、9月中旬～11月にかけて第三世代から第四世代幼虫が発生・食害をもたらします。

幼虫が小さい時には未展開葉を食害するため、その後、葉が展開した際に葉脈に沿った左右対称の食害痕(穴)がつきます(左写真)。

ナカジロシタバの幼虫は大きくなるほど、薬剤の効き目が悪くなります。なるべく幼虫が小さい時(若齢～中齢幼虫)に、薬剤散布を行ってください。

例年、ナカジロシタバの被害が拡大するのは、9月中旬以降の第三世代の幼虫ですが、9月は水稻の収穫作業も重なるため、ナカジロシタバの防除が間に合わなくなる可能性があります。一世代前の第二世代(7月上旬から8月中旬)に圃場をよく観察し、ナカジロシタバの発生が多い圃場では、登録のある薬剤で防除を徹底しましょう。

## <クロルピクリン剤を使用するときは必ず被覆を行いましょう>

クロルピクリン剤は土壌病害虫に対して高い防除効果をもつ一方、被覆を行わないとガスが気化・飛散し、使用者のみならず圃場近辺の人々や家畜、作物等に被害が及ぶ危険性があります。使用する際は保護具(保護メガネ+防護マスク)着用に加え、注入後には必ず被覆を実施してください。

### ◎被覆実施時のポイント

薬剤注入後、直ちに覆土し、ポリエチレンシート(0.03 mm以上)等でしっかり被覆をしてください。特に、人家や畜舎、鶏舎の近くでは、気温・風向き・事前のお知らせ等ガスによる危害の発生防止に十分配慮してください。

